

## 今年のお米はなぜ「まずい！！」

### ～ 古米(政府の備蓄米)の売りさばきが原因？ ～

昨年の冷夏の影響により、お米の収量が減り、お米の供給がままならない状況となりました。お米の価格も上昇し、消費者の方々の懐に厳しいものとなりました。

その価格も年を超えると次第に収まりをみせ、お米の価格も落ち着きを取り戻してきました。そんな中、依然15年産米の流動数は少なく、これを補う為、政府の備蓄米が使われることとなりました。

政府の備蓄米は昨年のごころには、およそ140万トン、それが現在では約70万トンに減少していますので、現在までに70万トン程の備蓄米が放出された計算になります。

\*平成15年10月～16年6月

備蓄米販売量(8年産～14年産) 合計 728,500トン

「米穀市況速報より」

また、今年6月25日に実施された政府米の入札でも、下記のように9年産を中心に、現在でも1万トン強が落札されているの現状です。

|                |      |          |
|----------------|------|----------|
| 政府米入札結果(6月25日) | 9年産  | 8,900トン  |
|                | 10年産 | 900トン    |
|                | 11年産 | 1,200トン  |
|                | 12年産 | 100トン    |
|                | 合計   | 11,100トン |

現在、政府はまだこの備蓄米を売る気にいるようです。

ましては、9年産の米は一度「主食用には使えない」として加工への売却が決まったお米です。これが主食用にブレンドされ売り出されればそのお米を食べても決して美味しいとは言えません。

これは米卸が消費者の安値米志向に応える為の行動でも有ると言えますが、卸業界が安い古米(備蓄米)を買いだめ、価格高の自主米を買い控えている実態がうきぼりとなっています。なぜ、卸がそんな事をするかと言えば、高い自主米を買う資金的な余裕がなくなったこともあるが、自主米を買い控えれば相場はもっと下がるとの思惑があるとも言われています。

こうした状況では、政府が掲げる「食料自給率の向上」とは完全に矛盾し、政府が古米の放出をやめなければ、コメ消費はますます減る一方となるでしょう。